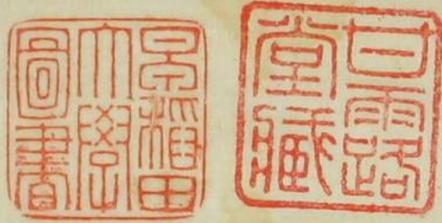




特別
~13
4181
4



持
入
13
4
1
4



しるべのしるべ

と戸のま酒をそらぐけられあむ。ゆめを四酒いそへ
まじりてあむ。酒のあひひと燦々みらるる
あまのこころ酒のあひひとあめれむ。酒のあ
香軒とらるる。さうらぶさうらぶ。酒とのあ
む。醒人のこころ清くさうらぶ。酒のあむ。醒
とらるる。あむ。さうらぶ。さうらぶ。酒とのあ
たふふらと清潔とあれむ。温清とさうらぶ。晋
の張翰の世のあむ。酒とのあむ。樂とせむ。
あむ。張氏とらるる。あむ。酒とのあむ。樂とせむ。



酩酊の酒の熱して喉のまじく滑り滑りのありとあり
 一説は云屠獲ハ香草の名ありと云いそりずと増
 酒ハ屠獲ハ草菴のめりりと云いひくハ名あり
 酒と酒と作りしゆハおとけと云いそり廣韻云屠
 獲酒元日飲之則可除瘟氣とありずと梅酒とそ
 正月二月ハ酒中ハ梅酒と酒ハのまじとのむりあり
 三月三月ハ酒中ハの宴とそ桃の花の咲けりありと
 ありしはけハ並居てとありとありとありて酒作り
 け酒とそ作りとありとありとありとありとありとあり
 かつんの酒と作りとありとありとありとありとありとあり

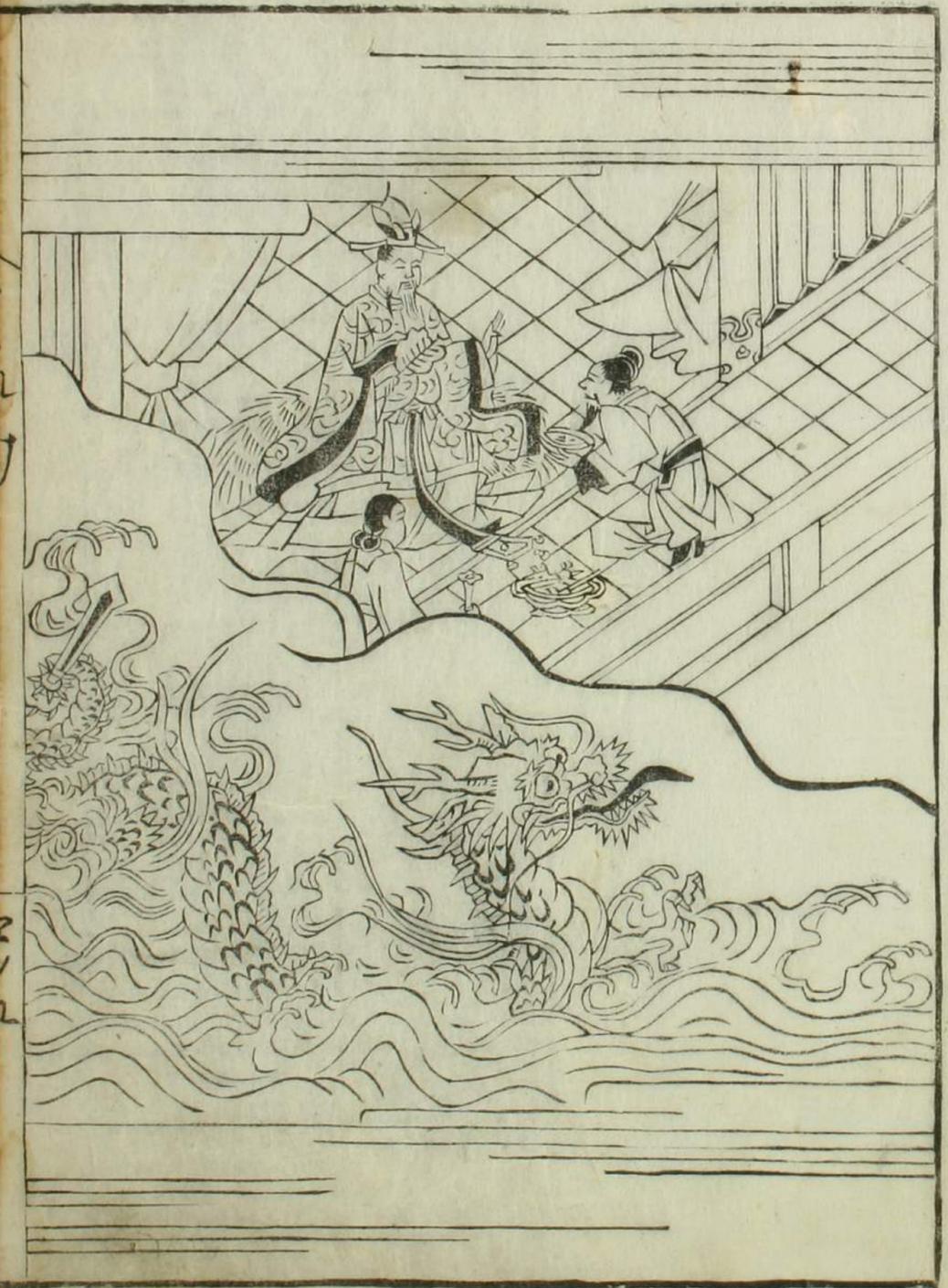
さいのりといひりハ流觴の曲ありと云いそり周の曲
 王の酒ありけりとありと十節録ハみえとありとあり
 周公の酒あり始りといそり逸詩ハ羽觴隨波あり
 ありと周公の酒ありとありとありとありとありとあり
 中ぐまり世俗ハ桃花と酒子の果ありけりありとあり
 中ハ桃花とありとありとありとありとありとありとあり

酒ノカ

酒ノカ

花のさうりよふ花と醸ととて花と酒よ入て酔
 もりの瑞午よの葛蒲酒と後ひり平舒王
 と科よあきて殺さるよのゆるふ其はうら
 うと毒蛇ともり酒とりわびんとして崇よ
 酒伏の術とをさるよとて酒よいしりし
 後奏しけるハ葛蒲酒と酒よいしりし
 静なり是よりと今色沈子の白葛蒲一
 しもさひその例なり。孟蘭盆ハ性灵会あり
 盃の酒とりし。持金草よとて地よりゆるり。

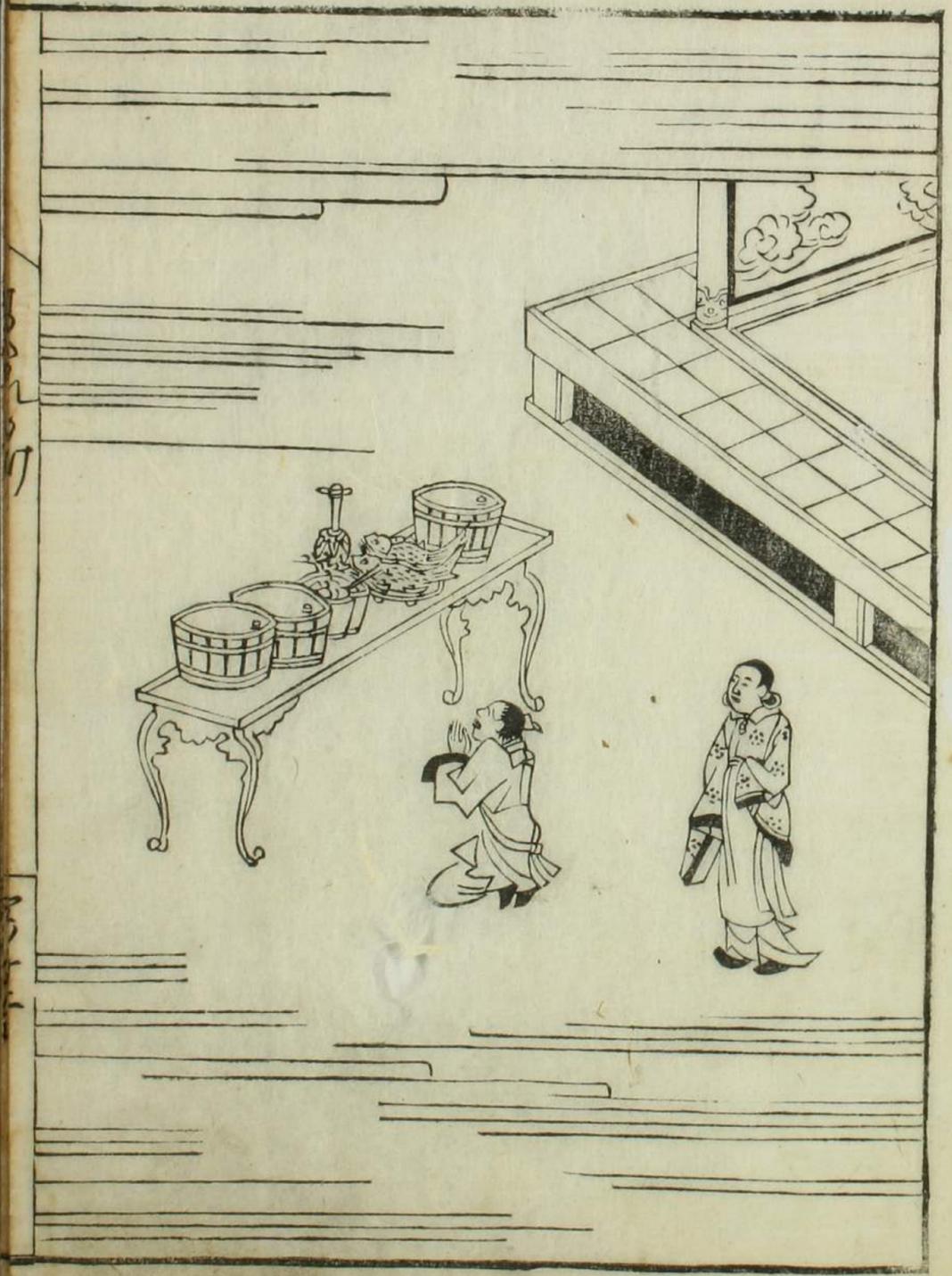




江戸の云渡船のありともありねむ死するがごとく
 と酒ともありねむ死するともありなりやめば
 一酒の茶ともつて酒ともありその茶酒ともあり
 茶と酒は清くそ其酒と腹に清く百病を治すか
 ららとり酒そははらうゆへに醫字に酒の字ととり
 と醫書のうらふあり又らとりよわすぞ何ぞやと
 不

三戸の玄酒八氣血と選と一神と醫くまろの毒ふ
りし醫書あもろせりと空傳人ゆるそのと醫の
道は醫所よふがの強ん矣羽めと泥碎さし修掬あり
劉玄石とふ人。なく泥碎さし。一醉十日とそふま
まてろんるり。さまう死んは矣めと。自殺して
有りけまぶん女を死せりと男ひて葬りまら。ま
十日ふまろはりひよわ。石をよめの高陽といひ
一女とぞり事りて。玄石とふは死せりとま
高陽ふら事りて。十日ふあらわら。わら
いごん被とひら。是とみるに。磁とすかいらさめ

よらりと博物志とふ書よゆり。まの泥泥めと玄石
が飲酒一醉十日とふはすうまゆまてりあり。韻府ふん
えろり酒ゆは十日死人と有り。いとわらこあ
み。三戸の玄酒のこらと三戸の平強は十日も
やど飲せらるる。男ハ陽。女ハ陰。これを女ハつ小
とくむのり酒をまこと女も男も熱と掃ひゆき。
酒の熱とらふの掃とて塵とらうまてくまれと
て禪語よ掃熱帚とらえり。すかいら酒の若とと
駢ガ約よ漢卒消白酒消愁。一醉忘情万夏休あり。
まて東方朔傳めと鎖憂者莫若酒とゆり。ま



石の沖解醒とらふはなぐりつる。されどこそ。今もじ
 りひ酒と号してと戸ハ碎のこめと酒ハ飲なりあな
 んとらふ。 戸の云梵網經めも是酒起罪因縁
 也とあり。そのと宇宙の海くひひまぐらわぶいさり。
 伯倫太白故ゆふ取とらふびとらふ。

王勣の酒うて天ろよをさひらめ源流とよふ酒の僕
と欠りたし纏袍と質をまきそも酒の飲めとよひ人生
七十古来稀なりとそ毎日江頭よらひてゆりうら
杜南よりあつわきとこし酔杜南よふひは日休も麻
門は隠居して酒を好りう人あれを酔吟先生と号
ぢいとよふ ち戸の云々酒のよら共の孫権武昌
の釣養めて飲酒し群臣の向款よあつ酒ていそく
けふ既よ飲酒とよれは破て物替のよふあえんとあり
孫権の酒は張昭とらんわらりつり遊でいそく
殷の紂王の酒の糟とて心と集る酒と池よこして目乾

酒せしまうとど酒河のこのこもやとらんど後とよし
ざり一にゆふいと必とこびとこめりり果とよ
い書よとてあましく爵の字と集くよあつゆふとめ
しじ字まらむとらむ在と爵と音義通用なりとらむ
とらむ爵の字とらむ酒と心とこしとらむれとらむ戒
有り權ハ酒乱のあり酒後よかまて流花の心せらむ
ゆへり酒のあを瑞草とよれとまこひとらむ大人
國天下とあひふと力とあふ嬌なりとらふ わつど
の男の云力とあひふと下とあふを戒ゆるとらむ
酒はうらりやとあひふとや孔子の酒のあつとらむ

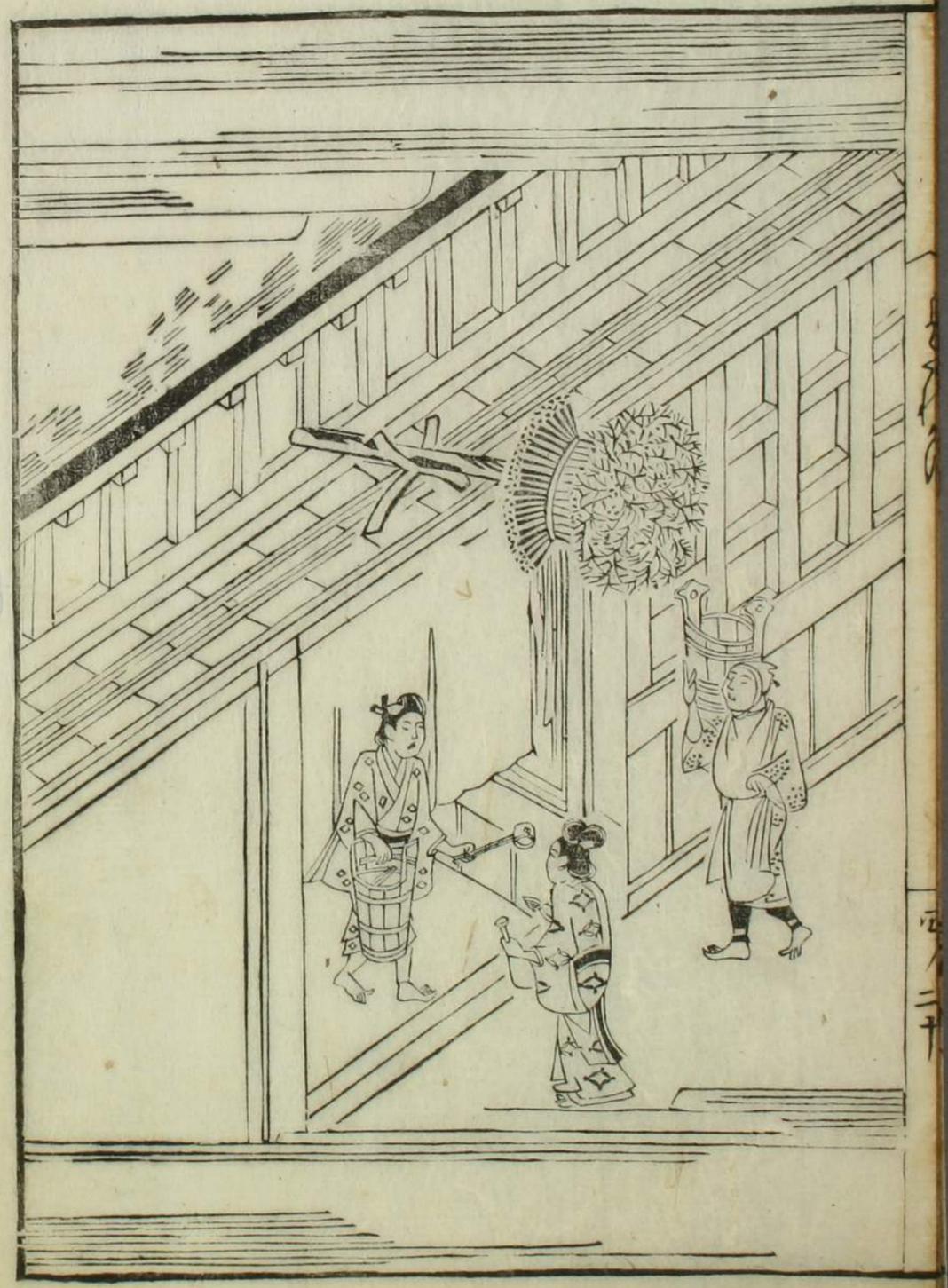
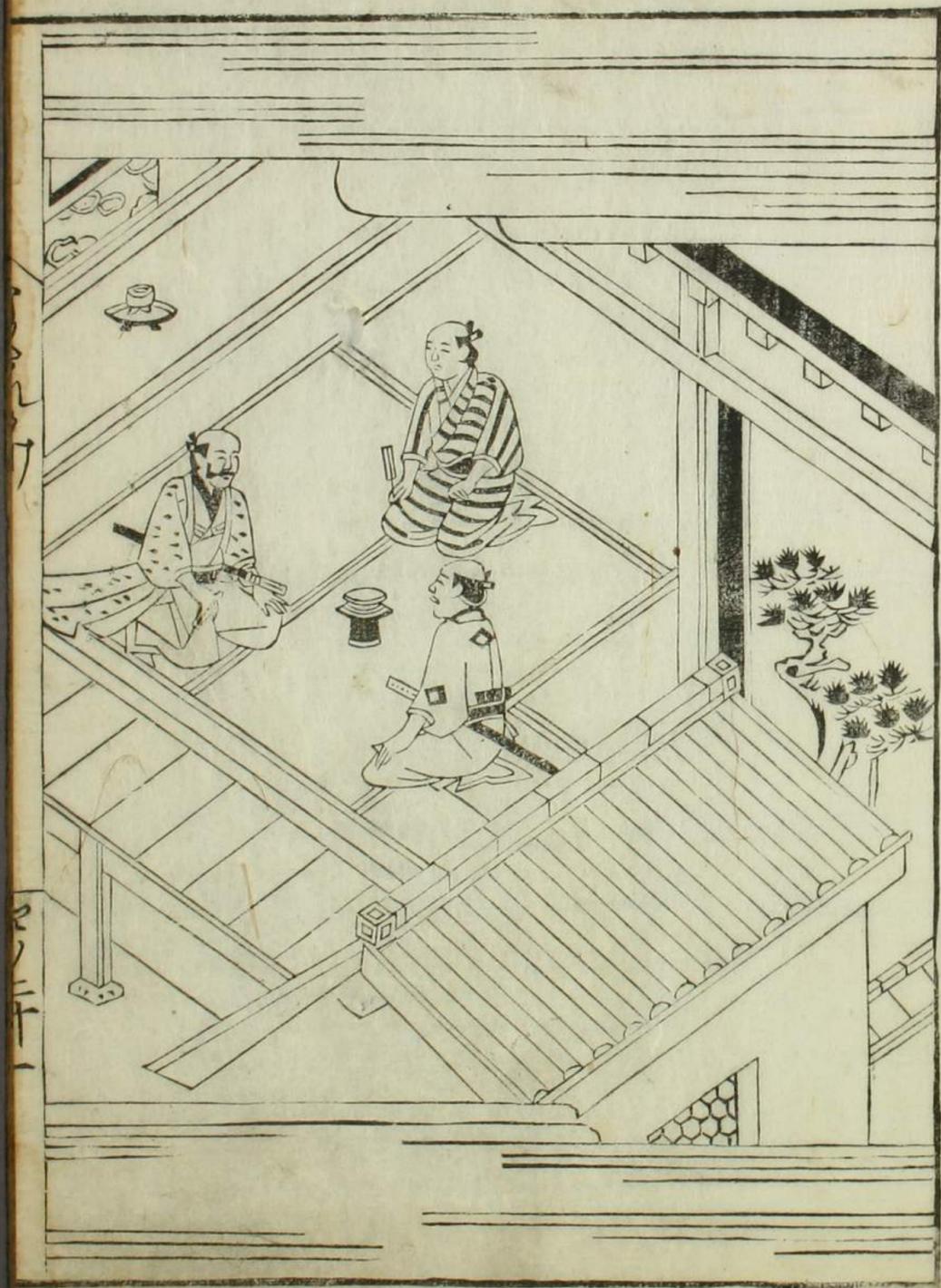
及びがさるれとて壁裏論めとゆき。大にとらと乱く
 し節よとらと茶ととれど若ぬの二道よとらとわぬ
 とみえとら。たんとて酒子のあはのこ。謀共の酒
 まで伏せんと思ふよ。謀とらとらとてたのらと
 且ほぐとら。軍法疏記のうらよとらとら。又世治院
 よびのち細か石の旁よとらとら。あはとらとら
 とらとら。出清院のゆとら。丹波の國よとら。酒曲量
 子退治のとら。一方のゆとらとら。酒。一方のゆとら
 毒の酒とてたのらとら。毒の酒とらとら。つらつら
 とら。その例とて今とて。今とて。今とて。今とて。

のゆとらとらとら。後とらとら。とらとら。とらとら
 つじ節のゆとらとら。ひつらとら。とらとら。とらとら
 酒就也。所就人。性之苦。酒也。とらとら。とらとら。とらとら
 とら。酒ハナとて。とらとら。とらとら。とらとら。とらとら。



り戸の云酒と此膏とりの膏とらうく膏味のわらふ
のわらうらん古人の酒めを終日膏と酔夢間とゆき
とらふ 上戸云九人の膏のまはらう方のわらう
りり九人ともふか九びもらうりのわらうく
九献ともとちれらふ り戸の云上戸方れら
らうくえびあふものわらうく酒のわらうく
らん酒の急げ浮蟻とらひ浮蟻とらひいなるらふ
やとらふ わらうの男れ云酒の糟のちらうく
中は浮へ向蟻のうへらふぬらうとらふ
浮蟻とらひ浮蟻とらひと蟻と浮らふぬらう

いつまも新酒のりりらまこた酒の一ざんと沈み
ならうよとらうりのわらうくはらうくはらうく
新酒浮らうくとらうのらうく緑蟻とも
まこた碧友ともと碧香ともと碧香ともとらう
わらうひの醜醜 歡伯 采泉とらうとらう酒のわらう
文選よら酒のるくと十句とらう酒の百白よら
熱すらうらうらう大成よらとらう酒と飲らう
新よらうとらうらうらうらうらう り戸の云い
まこた酒と魯酒とらうらや魯國の酒のる所なりや
とらふ わらうの男れとらうとらうと魯酒とらう魯國



江戸の云酒場よりびねぬかきいまでいわたのうら
あれど酌まうとみせんと若あみあひしう一酌の盛
よてくまんすいぶゆらん若國めくもの大盛と
おと例ゆりやとふ 江戸の云唐よふ江戸めりて
江戸希りり酒りの入子盛のどくふふあめく
わり二味りの酒と壽りの二味りりと鮎とらひ
二味りりと鮎とらひ二味入と鮎とらひ二味入と鮎
とらふ今いじし一樽のりりこのおとらうこいふめと
まゆりのめとらふわりのの男れ云盛の大おいと
ゆれ酒の大おいとらふめとらふ一とらふ第一めりり

ことよきれとふ 江戸の云いりやと飲でも飲めぬ
とわきよと強り酒の名と長命酒とらふとらふ
ひとのう茶より酒と強め今とのう道にまれど
とそとらふとらふ文字まのとらふ文字也盛裏抄よめり
とらふ 江戸の云つらと飲まじつとらひつとらふ
つとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
離婁篇めとらふとらふ酒と強め若とらふとらふ
史記よ酒とらふとらふ酒とらふとらふ酒とらふとらふ
ゆりとらふ わりのの男れ云ぬ人の網が編なり
とらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

と戸もり戸もい一とややの血脈よりい
くわうい一と園陣の妹よりと酔狂のつらふわ
これ脊よわなきこれぞ わづらの男の云俗の病
あも理穿鑿よ怒うくとPはくは酒と
て怒とよりこれ人醫書あも酒は元地之蒸練
るの百葉より節より血脈と通し腸胃と厚し食
毒と殺し悪氣と掃ひ毒力と行し皮膚と固し寒
氣と禦寒氣と除き湿氣と散し神氣と健め。風
氣と散し血と凝り氣と行との器物よりつらふと
疾と生し淋と傷し胃と換し精とこひ血と耗し火と動

一月と傷り節と緩くらの悪毒よりとゆるし
て考へ給ふべし。おうさ秀句の早物候とさかふま
せんそし候らる。新酒のつらふ酒とすけむ
とふくと少く九飲氣とつら。酒のつらとさ
とこれ酒つらとせん。酒のつらとさ。酒の
て飲さる。酒のつらとさ。酒のつらとさ。酒の
とさ。酒のつらとさ。酒のつらとさ。酒の
ひより酒のつらとさ。酒のつらとさ。酒の
り酒のつらとさ。酒のつらとさ。酒の
あも酒つらとさ。酒のつらとさ。酒の

わるどの男のいいくく成成實實福福みみ同同善善ととてて酒酒ののひ
 のの罪罪ううららむむののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 ののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 ののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 庸庸ののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 飲飲酒酒のの中中庸庸とといいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 ののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 中中庸庸ののいいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ
 みみややとといいとといいどど偏偏よよああままみみなな罪罪ううららむむ

昔慶安式屠維丑曆栗烈良瓦

榎條軒

戲編

